

非食品・食品一括物流を2024年9月20日（金） から稼働開始

株式会社P A L T A C（本社：大阪市、代表取締役社長 吉田拓也、以下P A L T A C）と株式会社薬王堂（本社：岩手県盛岡市、代表取締役 社長執行役員 西郷孝一、以下薬王堂）は、サプライチェーン全体のさらなる最適化・効率化を目指し、非食品と食品一括物流（物流センターにおける荷受け・保管・出荷、店舗への配送）を2024年9月20日（金）から稼働開始いたしましたのでお知らせいたします。

食品物流をP A L T A Cが担うことは、化粧品・日用品、一般用医薬品（非食品）の中間流通を担う当社にとって新たな事業エリアへの挑戦となります。

P A L T A Cと薬王堂が属するサプライチェーンは、2024年問題をはじめ人手（ドライバー）不足に端を発する配送費・人件費やエネルギーコストの高騰といった経済的課題、働き方改革・ホワイト物流・二酸化炭素排出量の削減といった社会的課題など様々な課題に直面しています。これまでP A L T A Cと他企業様が別々で受託していた薬王堂の非食品部門及び食品部門の物流をP A L T A Cが南東北エリアにおいて一括して受託し、これらの課題を同時に解決することを目指します。

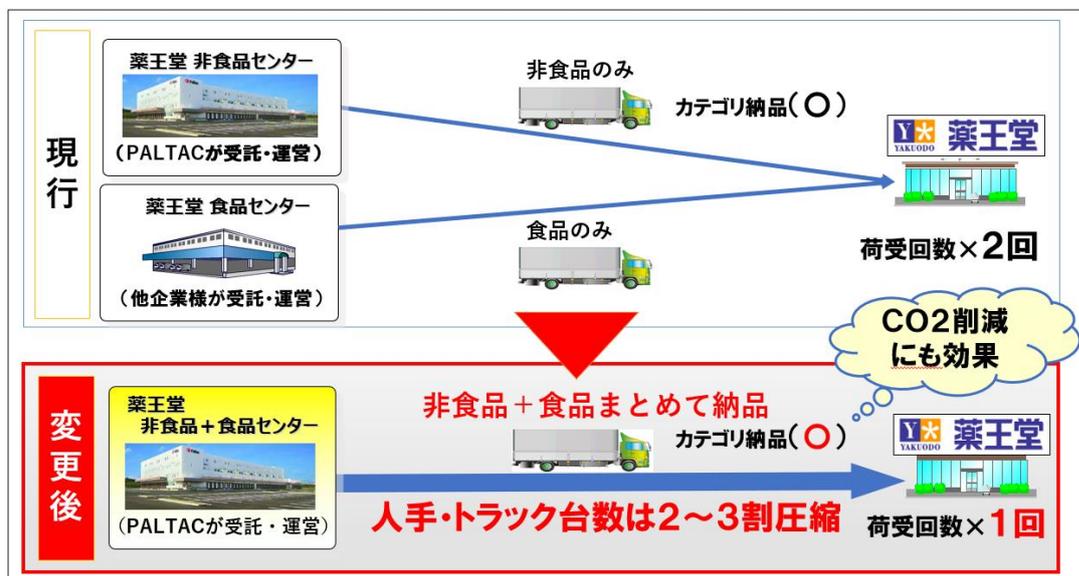
今回、一括物流の対象となる食品は、非食品部門との「管理、出荷、配送」における親和性と生産性を踏まえ、飲料や菓子など温度管理が不要な常温食品から取り組んでまいります。これらを一括して納品することにより、配送に要する人手やトラック台数及び二酸化炭素排出量は2～3割減少し、配送費の削減やホワイト物流の推進などにつながります。また、配送回数の減少に伴い、店舗での荷受け回数が減少することに加えて、現在、非食品で行っているカテゴリ納品を食品にも導入することで、陳列作業が軽減され、働き方改革にもつながると考えています。

一括物流の開始にあたり、P A L T A Cは物量増加に対応するため、既存の物流センターであるR D C宮城を増設し、年間出荷能力を350億円から550億円まで拡大しました。P A L T A Cは同センターを「卸売事業向けと薬王堂の非食品部門向けの物流」で運用してまいりましたが、今回の出荷能力拡大によりセンター運営に余裕を持たせることで、一括物流の拠点として活用するとともに、既存の物流においても他センターへの商品移動量を削減し、配送の効率をさらに高めてまいります。

P A L T A Cと薬王堂は、サプライチェーン全体の最適化・効率化が持続可能な社会の構築につながるのと考えを共有し、過去から協働で取り組みを進めております。2020年7月には、『キャリアを活用した一貫ユニットロード化』の取り組みにおいて経済産業省が事務局を務める製・配・販連携協議会「サプライチェーンイノベーション大賞」で「大賞」を受賞。2022年7月の『返品削減

及び在庫偏重解消による販売機会ロスの削減』と、2023年7月の『サプライチェーンを活用した資源再生の効率化』では「優秀賞」を受賞しました。本取り組みも、この考えに沿ったものであり、サステナブルな社会の実現・両社の持続的成長に向けて着実に歩みを進めてまいります。

(本取り組みのイメージ図)



流通の中間に位置するPALTACは、本年5月に新たに発表した長期ビジョン「つなぐ力で人と社会のミライを創る」及び中期経営計画の実行を通じて、流通の多様なつながりを創出・深化させ、社会に新たな価値を提供してまいります。今回の食品物流への挑戦は、中期経営計画の重点戦略の一つ“新たな価値創造に向けた挑戦”の一環であり、当社がこれまでに蓄積してきた物流ノウハウを流通の多様なつながりの中で活かすことにより、当社の価値提供領域を拡大してまいります。今後においても、様々な挑戦を重ね、お取引先様の繁栄と人々の豊かで快適な生活の実現を目指してまいります。

※カテゴリ納品：店舗の売り場構成に合わせて、カテゴリごとに商品を分類して納品すること。陳列・補充時の移動が減少し、店舗作業の負担軽減につながります。

《RDC宮城増設の概要》

	既存棟	増設	合計
・ 出荷能力	350 億円	200 億円	550 億円
・ 建築面積	3,476 坪	2,088 坪	5,564 坪
・ 延べ床面積	10,100 坪	3,541 坪	13,641 坪
・ 投資金額	約 40 億円 (建物・機械の投資金額)		



本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

営業本部・佐塚（TEL 06-4793-1075）

経営企画本部・嶋田（TEL 06-4793-1090）